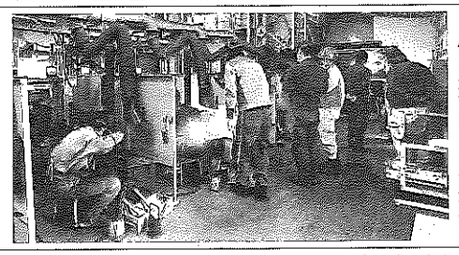
千葉県溶協

千葉県高校生溶接講習会を開催

5校11人の高校生溶接士腕磨く

千葉県溶接協会（廣田二郎会長）は3月23・30日の2日間、千葉県君津市にあるサンキユウリサーチアンドクリエイト東日本能力開発センターで高校生溶接技術講習会を開催。千葉県内で溶接を学ぶ高校生、計5校11人（定時・全日制別）が技術力を高めた。

23日の開会式では、廣田次郎会長が「溶接技能の上達について考えると、結局、一番溶接に興味を持っている人が成長していることに気が付く。溶接の世界は『好きこそものの上手なれ』が顕著に現れやすい。まずは溶接を好きになること。楽しい、面白いといった好奇心は必ず参加者の背中を押すはずだ」と挨拶。



講習会の様子

参加者には、先日開催された千葉県高校生溶接技術競技会で1・2位を独占した京葉工業の高芝湊さん（優勝）、堀越大翔さん（準優勝）の姿もあった。今回参加した高校は京葉工業、東総工業、市川工業、市川工業定時制、千葉工業の5校となる。

参加する高校生は未経験者から千葉県高校生溶接技術競技会の優勝者までレベルが様々だ。そのため、「ビード・オン・プレート」「3・2ミリ鋼板の突合せ溶接」、高校生溶接技術競技課題でもある「N−2F」など、各自のレベルに合わせた指導内容で行われた。参加者の声は以下。

■高芝湊さん（京葉工業）

溶接部と溶接部の繋ぎ目に肉盛しすぎてしまう傾向が見られたため、重点的に練習している。手を動かす速度を速めることで肉盛を抑えるなど、具体的な対策を指導して頂いたのが、本講習会に参加して良かった点だ。もともと工作が好きで工業高校に入ったため、授業で溶接に触れて、とても魅力的に感じた。関東甲越大会に出場することが決まっているため、ベストを尽くす。

■堀越大翔さん（京葉工業）

溶接の始点と終点で入熱しすぎて溶け落ちることが多い。本日、講師から「気が付かないうちに腕が傾いており、入熱が一定でない」と指摘され、修正している。溶接技能としっかり向き合い始めたのは、実習で初めて溶接に触れ、面白さを感じて機械研究部に入部した時からだ。本日教えていただいたことを生かせるよう、今後も練習に臨む。

■磯野智輝さん（市川工業定時制）

高校での溶接は、授業数が少ない上に体調不良で休んでしまったため、本日が人生3回目の溶接となる。すぐ近くで作業を見守りながらリアルタイムで指導していただける環境は学校にはないため、とても勉強になった。将来は溶接士として働きたいと感じている。

■小林慈永さん（市川工業定時制）

溶接の授業が好きで、積極的に溶接に触れるようにしている。溶接機の電流値の微細な調整は、企業で活躍する溶接士ならではの勘所であり、それを本日指導して頂いたことはとても勉強になった。将来は溶接士として働きたい。

■岩瀬心優さん（東総工業）

「溶接棒は進行方向に対して45度」といった具体的な指導が勉強になった。高校で溶接を練習する際、一人で数多くのポイントを見つけるのは難しい。将来の目標は溶接士ではないが、改めて溶接作業はとても楽しいと気が付かされた。

■信定琉空さん（東総工業）

溶接作業における「安全」について繰り返し指導していただいた。例えば溶接機の使用方法一つにしても、実際の作業を通して安全・不安全を教えていただき勉強になった。明日からの練習にも取り入れたい。

■戸村圭祐さん（東総工業）

基準となる正しい溶接のやり方を学べたため勉強になった。溶接は人それぞれの工法があり、「これが正解」というものがない。しかし本日のように一つの正解を教えていただけたことで、それを自分に最適化していくよう練習を積みたい。

関係者一同